

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会藤井医院 グループホームみどり	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「緑豊かな環境 恵まれた景観」と、理念に記しているように、居室から市街地、海が一望できる環境の中に「みどり」があります。母体が医療法人であり、医療との連携がしっかり取れており、ご利用者が安心して生活が送れるよう健康管理を行っています。寄り添いながら、心の触れあいを大事にし、その人らしい生活が送れるよう、職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームみどり”のチームワークは着実に良くなっている。平成21年に新体制になって以来、日々の暮らしの中で大きな笑い声も聞かれ、職員同士の助け合いや思いやりも多く、ご利用者中心の生活が送られている。折りに触れて施設長が伝え続けてきた“プロ”としての仕事を行い、“自分だったら…”と言う視点を忘れず、自分の姿を振り返る姿も日常の中で見られている。管理者の前向きな姿勢と共に、介護支援専門員の方の明るさとお人柄もホーム全体の明るさを増し、職員全員の良さを引き出すきっかけとなっている。母体医院の院長先生の往診も受けながら、終末期ケアも行われている。家族の協力もあり、最期まで“その人らしい”生活が送れるように精神誠意のケアが行われた。「もっと何かできたのでは？」と終末期ケアの振り返りも行われ、“生と死”について職員個々の思いを話し合う場も作られた。職員の入れ替わりを経験しながらも、新人職員の新鮮な気づきや視点を大切に取り入れ、職員同士の意見交換も増えており、“一人一人の声に耳を傾け、その人らしさを大切に生活を送れるよう努めます”と言う理念の実践を続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を復唱している。状態表に理念を記入、又、施設内にも提示し、意識を高め実践に繋げている。	”その人らしさ”と言う事を大切に、生活歴や趣味等を教えて頂く機会を増やしてこられた。「自宅で過ごす時間を持てたら」と言うご本人の願いを叶えるために、職員も一緒に歩行能力の維持・向上に取り組み、願いを叶える事ができた。ご利用者同士の助け合いも増え、編み物なども楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において地域の行事を教え、交流が取れるよう双方ともに協力し、回覧板や案内の提示を行い、お互いの行事に参加している。	公民館祭りに、ご利用者の作品を出品している。婦人部主催の万華鏡作りでは、ご利用者も一緒に楽しい時間を過ごされた。3階で行われた幼稚園児の楽器演奏を楽しまれ、小学校の運動会ではご利用者も一緒にダンスに参加する事ができた。市民大清掃や地域の加ーリング大会への参加も含めて、地域との交流は増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとしてサポーターの養成を行うと共に家族会、運営推進会議にて、認知症の人の理解や支援方法を課題としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の状況報告及び行事報告、今後の行事予定を含め報告を行い、認知症についての理解、支援方法等を課題として取り組みサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。地域の加ーリング大会や婦人部主催の行事の情報を頂くと共に、当施設の夏祭りに催し物をお願いすると、睦会の皆様による“ひよっこ踊り”を披露して下さいました。参加者の方々が明るく、色々な意見を頂けるばかりで、毎回、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告行っている	22年9月以降、地域包括の方が運営推進会議に参加して下さい、ホームの活動状況を共有して下さい。24年から新しい担当者の方が来られており、認知症研修のパンフレットを持参して下さいました。市主催の研修会にも参加しており、市の窓口に出向いた時も親切に対応して下さいました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアマニュアルを作成し、いつでも閲覧出来るようにしている。身体拘束委員会を発足し、日々のケアにおいて、疑問がないか等、話し合いを行っている。	職員は身体拘束を行わない支援の大切さを理解している。経管栄養の自己抜去予防のための対策も頻回に検討され、チューブが目線に入らないような工夫が続けられた。玄関も開錠し、隣のユニットに自由に行かれる方もおられる。声かけにも配慮し、職員同士で注意を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会及びホーム内での勉強会で学ぶ機会を持ち意識を高めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用しているご利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は勿論のこと、解約又は改定時には、必ず説明を行い、又、不明な点や質問・意見がないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両ユニットの中央に意見箱を設置している。面会時に、スタッフの顔は分かるが名前がわからないとの意見があり、玄関に写真入りの名前を提示した。	入浴時や団欒時に、行きたい場所や食べたい物、したい事等を尋ねている。「買物がしたい」と言う事で日用品の買物に出かけたり、体調に留意しながら夜のドライブに出かけ、イルミネーション見学やホテルも楽しまれた。クリスマス会で家族も一緒におやつを楽しまれたり、家族会を日曜に開催するなど、参加しやすい体制も作られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年4回、同一法人による合同リーダー会を開催し、意見交換を行っている。全体会・フロア会を毎月開催し意見を出し検討、運営に反映されている。	毎月の勉強会で、各フロア順番に事例発表などを行っている。夏の制服に関する意見や、共有空間で職員が目が届きにくい場所に大きな鏡を設置して欲しい等の意見もあがり、内容に応じて施設長から事務長に伝えている。お互いの良さを認め合い、プロの仕事を行うためのチームワークも強くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当を整備(ケアマネージャー・介護福祉士)希望休・有休も取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月／2回(全体会・ミーティング)で勉強会を開催、又、外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホーム及びグループホーム連絡協議会に参加し、他のグループホームの交流を取り、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族様の意向を傾聴すると共に、普段の生活の中で「何を必要としているか」を見極め、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良いサービスを提供出来るようご家族様・ご本人の意見を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向を傾聴し、その時々で必要とする、サービスを見極め、適切により良いサービスが提供出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活の知恵等、教えて頂き助けて頂いており、共に試行錯誤しながら、毎日の暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族の関係、ご家族の立場等を考慮しながら、外出・外食・受診等のお手伝いをして頂き、職員と一緒に安心して穏やかに充実した日々が送れるよう支援して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に訪問して頂けるよう家庭的な雰囲気作りに心掛けている。	ご利用者の生活歴や職歴を伺うと共に、ご利用者と一緒に自宅訪問し、盆栽やお花を見つめる姿を通して、ご本人のお好きな事を把握している。家族と一緒に外食される方や、馴染みの美容院に行かれる方、お墓参りに行かれる方もおられる。隣のユニットに知人がおられる方は、いつでも会いに行けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話や行動を見守り、場の雰囲気を壊さないように適時職員が介入したり、なじみの入居者様にじっくりと、話を聴いて頂くよう、お願いしたりと協力を求めながら孤立しないよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも訪問を歓迎する事や、相談・支援の受け入れが出来ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を多く持つよう努め、希望・意向の把握に重視しケアに取り組んでいる。	ケアマネと担当者が中心に、ご利用者の生活歴や趣味などの把握に努めており、基本台帳にも記載している。団欒時や入浴時、散歩時に1対1で会話をされており、質問形式にする事で単語が増え、笑顔も増えている。気持ちが不安な時はそばに寄り添い、その方がお好きな品物を準備して気持ちを和らげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用した多方面より情報を得て、ケアに結びつけられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンを把握し、心身状態を考慮しながら残存能力の維持及び、新たに取り組めることは、何かを見極めながら、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心してより良く暮らしていく為に必要なケアを担当者が中心となり職員全体で検討し、本人やご家族に意向を確認し、介護計画を作成している。	23年10月頃から検討内容の記録が着実に残されている。職員の気づきも記載され、全職員の意見が計画に反映されている。計画には、お部屋の掃除・台所の手伝い・日用品の買い物・編み物・大正琴など、ご利用者の楽しみや役割が盛り込まれ、理学療法士とも連携し、専門的な運動も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別に記録し、介護計画が確実に実践出来ているかをチェック出来る方法にて評価につなげ、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態の変化を察知し、その時に生じる必要性をどのように対応するかを考えており努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の関わりを持ち、地域資源について少しでも把握出来ればと努力している。又、地域の住民として催し物にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又は、ご家族の希望する医療機関を受診出来るよう配慮している。心配であれば心身の情報提供も行い、スムーズに受診出来るよう支援している。	朝夕の体調を毎日医院にファクスし、週2回院長の往診が行われている。定期受診は主にケアマネが介助し、受診結果は家族と共有できている。同建物内の常勤の看護師や母体の医院の看護師とも連携できており、点滴等の必要な医療処置も行われている。体調によって、総合病院への紹介も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護は有料老人ホームとデイサービスに看護師が常勤しており、状態に応じ報告し指示を得ている。又、同一法人である医院に連絡し、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換を行い、安心して入院生活を送り、早期に退院出来るよう、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が医院であり、主治医と看護師の協力体制が十分に得られており、重度化した場合や終末期に於いて、ご利用者・ご家族の意向を尊重し各関係者と連絡を持ちながら支援に取り組んでいる。	入居時に看取りに関する指針の説明を行い、意向も確認している。終末期には院長が家族と話し合い、ご本人と家族の“暮らし方と治療”への意向を踏まえた終末期ケアが行われている。終末期は毎日往診があり、最期まで精神誠意のケアが続けられている。看取りを終えた後、“もっとできた事はなかったのか”等の振り返りも行われ、「死」について職員個々の思いを話し合う場も設けられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルは、すぐに閲覧出来る所に設置している。勉強会にて、定期的使用方法や迅速な対応方法等を教わっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	これまでの不備等を改めて、避難訓練誘導マニュアルを作成した。又、同一法人による、災害対策委員会を発足、体制作りに取り組んでいる。	24年9月にスプリンクラーが設置され、防火マニュアルも新しく作成し、誘導方法も変更された。火災発生防止のため、日頃からコンセントのチェックや埃の除去にも心がけている。在庫として常時食材はあり、飲水用としてペットボトルの水も準備している。今後は、非常持ち出し袋なども準備していく予定である。	総合教育センターが避難場所であるが、災害時はホーム(複合施設)も地域の避難場所になる事も想定される。今後も引き続き、地域との協力体制に関する具体的内容を、運営推進会議で検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには十分に配慮し、排泄等の声かけは、その場を離れて声かけを行うようにしている。	施設長や管理者は、「どんな時にも優しい声かけと尊重を忘れないようにして下さい」と職員に伝えている。職員は常に、“自分だったら”“自分の家族だったら”と言う振り返りを行い、“お手伝いさせて頂く”という気持ちを大切にしている。声かけの仕方や声のトーンに配慮し、職員間で注意できる関係になってきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望をその都度確認し、意向にそった支援が出来るよう努めている。又、自己決定が困難なご利用者には、声かけを工夫したり、表情を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度一日の流れは決っているが、ご利用者の状態を把握し、入床して頂いたり、趣味活動を取り入れたり、ご利用者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容ボランティアによるサービスを定期的に受けて頂いたり、季節及びその時あわせ、お洒落が出来るようお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けを尋ねたり、その時々で調味料を選んで頂いている。配膳の準備や盛り付け、時にはサンドイッチやオヤツ作り等を一緒に行っている。	ご利用者の希望を探り入れ、両ユニットで月交代に献立を作成している。日々の食事と共に、職員の作るチーズケーキ等は皆さんに好評で、お刺身等も喜ばれている。テーブル拭きやモヤシの根切りなどを手伝って下さり、職員も一緒に会話を楽しみながら、持参したお弁当などを食べられている。そうめん流しも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量をチェックし、水分ゼリー等も用いて必要水分量が確保出来るようお手伝いをしている。又、栄養バランスがくずれないように、食欲不振時には、栄養補助食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔体操を行い、舌のチェックをしている。洗口液にて、口腔内の衛生・口臭予防に努め、定期的に義歯及び、含嗽カップ・ハブラシ等の消毒を行い清潔保持をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能及び全身筋力の低下により、やむなく床上排泄を行っている(一人)。殆どの利用者が、尿とりパットを使用しており、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、下着使用(+パット)の方も多し。パットの大きさも個人毎に変え、羞恥心に配慮して、さりげない声かけを続けている。事前の声かけを行う事で失禁減少にも繋がり、完全ではないが、尿意・便意の感覚が戻ってきている方もおられる。ホータル利用時も目隠しのカーテンを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳・ヤクルトを飲用し、出来る限り自然排便をとお手伝いしている。食物繊維を多く含んだ食材を取り入れたり、個々に応じてセンナ茶等を使用し、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めているが、その時の状況により柔軟に対応している。	お風呂好きな方が多い。拒否がみられる時には無理に勧めず、少し時間を置いて入浴気分になって頂いている。体調に応じて2人介助も行われ、ご利用者によっては、洗髪も自立されている方がおられる。入浴時は会話を楽しみ、「お寿司が食べたい」等の希望を伺っている。季節に応じて、菖蒲湯等も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のペースに応じ、安心して安眠・休息が取れるよう、一人ひとりの生活習慣を大事にして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬の詳細をファイルして、副作用や注意事項の確認をしている。又、フロア内に、服薬表を提示し毎回、日付・名前・本人確認を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編物や作品作りを一緒に行い、達成感を得るお手伝いをしている。又、体調の変化が著しいご利用者は、ホール又、敷地内を散歩し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせた日常の会話の中で、「何を見たい」「どこに行きたい」「あれが食べたい」との希望をあ尋ねし、ドライブ・外食・甘味処・花見等に出かけた。	施設周辺は見晴らしが良く、散歩をされたり、他のフロアにも遊びに行かれています。季節に応じて、波佐見町のかかし見学や伊万里での梨狩り、川棚温泉、蛍見物も楽しめました。水族館のイルカショーに感動し、「もう少し長生きしないと」と言う言葉も聞かれた。買い物でジャスコに行かれた時も、館内の広さに感動されていた。	施設長や管理者の思いでもある、“利用者一番”“もっと楽しんで”という思いは職員にも浸透し、外出の機会も着実に増えている。今後は、土いじりをする機会を作り、野菜を育てたり、花を植えたりする機会を通して、更なる感動や喜びを増やしていきたいと考えられている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理し、必要な時に職員介助のもと購入している。ご家族の協力でご財布を所持し、小銭を持っているご利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が県外に在住しているご利用者には、定期的に状況報告を行ったり、ご利用者が直接、電話をかけたり、交流を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間にて、快適に過ごして頂けるよう、テレビ・CDの音量及び湿度等に配慮し、催物の写真や季節を感じて頂けるよう掲示物を工夫している。	各ユニットの入り口には職員の写真と名前などを掲示している。高台にあるため、ユニット毎に海や山などを眺める事ができ、1つのユニットでは編み物の作品を飾り、掲示物の作成などを、ご利用者と楽しませている。1つのユニットでは盆栽や花の植木が大好きなおられ、日々水やりなどをして下さり、脳トレなどもされている。外出時の写真も貼り、日々の会話のきっかけになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々に椅子を置き、移動時にちょっと腰をおろせるようにしている。共同空間にソファと畳みを設置し、くつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力を頂き、使いなれた家具や備品等にて、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	自宅で使われていたタンスやソファ、テーブル等を持ち込まれており、ぬいぐるみや造花、写真、観葉植物等を飾られている。大切な仏壇を置かれている方もおられ、持ち込みの少ない方には、写真や動物のポスターなどを貼り、少しでも居心地の良いお部屋になるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を提示し分かりやすいようにしている。トイレ・洗面所等にも分かりやすく記載した貼り紙をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の機会を多く持っていただき、楽しみや感動の場面も増えてきている。「もっと楽しんで！」と言う職員の思いをより一層、入居者様に伝えていきたい。	* 外出支援を継続する。 * 土いじりをする機会を設け、物作りの喜びや感動を更に増やす。 * レクリエーションを復活する。体を動かし、共に笑顔で過ごす時間を得る。	* 恒例であり季節感ある行事を計画し実施する。 * 野菜を育てたり花を植えるなどの土いじりをする機会を作る。成長の観察や収穫の喜びを実感していただく。 * レクを実施するにあたり、どのように行うか検討して実施する。実施状況を記録する。	12 ヶ月
2	35	災害対策について、地域との協力体制を深めたい。災害に備えての備品を更に進めたい。	* 自治会との協力体制を整える。 * 必要物品を備蓄し、万が一の時に即対応できるよう、「非常持ち出し袋」を準備し設置する。	* 運営推進会議での体制の申し合わせを繰り返す。 * 消防署立会いのもと、避難訓練を計画する。 * 備品リストを作成し準備する。 * 備品の設置場所を決める。 * 定期的〔内容に応じて〕に備品の確認を行う。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月